学園だより

No57
令和4年6月

発　行
広島県立広島学園
東広島市八本松町原 10844
電話（082）429-0351

新任の挨拶

園長　川上　誠司

このたび、令和四年四月一日付けで広島学園長を拝命いたしました川上誠司と申します。

広島学園では、子どもの成長に重要な期間をお預かりし、子どもたちに安心・安全な生活を保障したうえで、自らの課題に取り組む支援を行うという大変重要な役割を担う場所であり、責任の重さに身が引き締まる思いがするとともに、子どもの成長する姿を見ることができる期待感も感じています。

広島学園の生活の中では、集団生活を行ううえでの様々なルールがあり、決められた日課に沿って生活していきます。子どもさんの行動には一定の制限がかかってしまいますが、子どもさんを守る意味合いもあります。できるだけ制限を少なくしていこうと思いますが必要なルールもありますのでご理解をお願いします。

決められた日課を丁寧に過ごすことで基本的な生活習慣の確立を目指し、その中で見つかった自分の考え方や行動の仕方に気づけるよう、職員と一緒に確認し、自己理解を促し、そのうえで、適切な対応方法、自分の気持ちと行動のコントロールの方法を身につけていくよう支援していきます。

学習指導は、併設のもみじ小学校、もみじ中学校と連携して、広島学園の職員が授業の補助に入ることや、寮での学習支援に学校の先生に協力をいただくなど、日々連携して取り組んでいます。入所によって学力がとても伸びていくので進路選択の幅も広がっています。

もう一つの重要な取り組みが、作業です。広島学園には広大な農場があり、子どもと職員が一緒に土を耕し、野菜を植えるなど汗を流しています。道具の使い方を覚えることはもちろん、自分の体の使い方も覚える機会です。また職員と一緒に汗を流し、収穫を一緒に喜ぶことも、お互いに良い時間となっています。

今年度も新型コロナウイルス感染症が日常の様々な場面に影響しており、子どもと職員がテーブルを囲んで食事をすることができず、寮の中で黙食とせざるを得ない状況となっています。また、年度当初の時点では、規模を制限しての実施となっている行事もあります。広島学園での生活の中で、どれも重要な役割を果たしており、早く新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを祈るばかりです。

子どもたちは、広島学園に来ることを望んでいたわけではないと思いますが、子どもさんや保護者の方が、退園後に良かったと思っていただけるような支援ができるよう、職員と研鑽し実践していきたいと思っています。

皆様方には、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学園行事

◆とんど行事

中二　男子

僕は、三年ぶりにとんどをしました。久しぶりにとんどが燃える火を見て、「懐かしいな」と思いました。頑張って作ったとんどの竹などが、焼けて崩れていきました。それぞれが話をしながら、火が燃えるのを眺めました。時々、竹の中の空気が温められて破裂したりしました。その音に「うおー。」とか言っている人がいました。破裂した破片がたまに飛んできたりしたので、火が燃え移らないかと思い、少し怖かったです。でも、特にそういうこともなく、火は小さくなっていきました。お餅も食べました。とんどの火で焼いたお餅なので、とっても美味しかったです。僕は、砂糖醤油をつけて、お餅を二つ食べました。とっても美味しかったです。

これからの生活も頑張ろうと、元気が出ました。

◆ハッピー・バレンタイン

中三　女子

少年友の会の皆様、チョコをありがとうございました。ミルフィーユは、初めて食べました。不思議な食感でした。二つのチョコは、どちらもサクサクで美味しかったです。チョコで、日々の疲れが吹き飛び、頑張る力が湧いてきました。これからの生活も、しっかり取り組みます。

◆犯罪防止教室・交通安全教室

中二　男子

僕たちのために犯罪防止教室と交通安全教室を開いて下さり、ありがとうございました。犯罪防止教室では、スマートホン（以下、スマホ）の正しい使い方について色々なことを知ることができました。スマホを使う時には、「スマホで知り合った人と会わない」「撮った写真や画像と個人情報を送らない」「悪口を書かない」「いじめをしない」ということを守れば、安全に使用することができることを知りました。スマホを使う時には、自分の年齢や利用状況に応じたフィルタリングを設定することも大事だと知りました。交通安全教室では、自転車の正しい乗り方について改めて知ることができました。自転車に乗る時には、「ヘルメットを着けること」「周りの安全確認をすること」、この二つが必要だということを知ったので、自転車に乗る時には、この二つのことを必ず行っていこうと思います。

◆第三回進路講演会

「働く」を見つける

広島駅弁当株式会社

渡辺　様

＊「働く」とは

・小学生の時の働く　…大人になったらしないといけないこと

・中学・高校の働く　…好きなことのためにお金を稼ぐ

＊今の働く

・人の役に立つことで、売り上げというお金を得ている

・「やりたいこと」「好きなこと」「得意なこと」を活かして人の役に立つ

⇩　働いた結果として給料（お金）を得る

＊「働く」を見つけるために

・色んなことを経験する

・たくさんの経験の中に、あなたの「働く」が眠っている

・人生の半分は仕事。

・より良い「働く」のために色々とやってみよう！

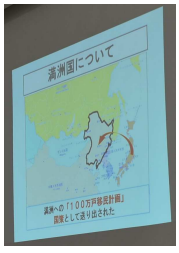
中三　女子

私は、最近の生活の中で、機械化が進んでいるから、自分が好きなことが機械化になってしまったら、収入の安定か、別の好きなことを探すか、どちらにしようかで悩んでいました。しかし、講演会でのお話を聞いて、好きなことをやり続けようと思いました。また、お話の中で「自分が学んだことを活かして、人に喜んでほしい」と言われていて、私も「自分が学んだことを活かして、人を幸せにしたい」と、強く思いました。私は、今はまだ将来のことは、沢山悩んでいるのですが、講師の先生が言われていた「色んなことを経験する」ということをしていこうと思いました。そして、苦手なことや得意なことなど、色んな事に挑戦することを大切にしていきます。

◆中国残留孤児の方の体験談

小六　男子

講演会で学べたことは「辛くても諦めないで頑張っていく」と「勉強も基礎を大切にしていく」と言うことです。僕は嫌なことがあると、直ぐに諦めてしまうところがあり、後悔することがたくさんありました。講演を聞き、僕よりもっと大変な人がいるのに、こんな小さなことで諦めてはいけないと考えました。この気持ちを忘れずに頑張りました。講師の方の経験の中ですごいと思ったことは、困難な日本語も頑張って話されていたところです。僕も、困難なことにチャレンジしたいです。



◆後期を振り返って

中三　女子

私は、後期を振り返ってみて頑張ったことが三つあります。一つ目は受験勉強です。「絶対合格してやるぞ」と意気込み、余暇の時間もできるだけ受験勉強に取り組みました。たった二ヶ月だった

けど、今まで勉強をしていなかった時間を取り戻そうと思って取り組めたので、沢山のことを吸収することができました。学習の効果もあり、期末テストでは中学三年間の中で最も良い成績を残すことができました。この結果に満足して終わるのではなく、高校へ入っても勉強する習慣を大事にしていこうと思います。二つ目は、マイナス発言が少なくなるように気を付けたことです。特に部活や労作などの体を動かすことが苦手なので、よくマイナス発言をしていました。けれど周りの人も私の発言によってマイナスな感情を抱くかもしれないと気づいてからは、気を付けるようになりました。初めは人を不愉快な気持ちにさせないためにと取組んでいたけど、だんだんとプラスに考えられるようになりました。例えば、部活では「こんなの私には無理だ」と思うよりも、「できるような気がしてきた」と、前向きに思えるようになりました。部活でこのように考えられるようになってからは、勉強をする時にも、難しい問題を諦めず挑戦してみるようになりました。入所前の私は、無理だと思ったことをすぐに諦めてしまうことが多かったので何かをやり遂げたことがありませんでした。そのため、達成感を感じることが無く、自分に自信を持てずにいました。初めは部活に対して、やらされていると感じ、嫌だったけれど、先生方に褒められることで自信がつき、少しだけ好きになり、見方も変わりました。自分に自信を持つことで何に対しても取り組み方が前向きになると学んだので、これからも前向きに物事を捉えていきたいです。三つ目は、忘れ物を少なくすることです。前期と比べてみると減っているので、頑張ったことの一つとして挙げました。退園するまでに一か月間忘れ物をしない月を作ろうと目標を立てたけど達成できず悔しくて、私にとって忘れ物は一生の課題だと思っています。結果として目標を達成することができなかったけれど、達成するために対策をしたことが大切だと思っています。ある先生が、「結果よりも良い結果を出すために努力する過程の方が大切だ」と言っていたので、これから高校に入っても今までのように忘れ物をしない対策を続けていこうと思います。

◆更生保護女性会との花の植付

四月二十二日(金)に更生保護女性会のみなさんとプランターに花の苗を植え付けました。プランター用の土(肥料入り)と花の苗は、春と秋の花の植付時に女性会から寄贈してもらっています。毎年、とても立派に花が成長し、子どもも職員も癒されています。子ども達は、花の苗の植え方を女性会の方に教えてもらいながら、楽しそうに花の苗を植えていました。

◆ゴールデンウイーク

寮ごとにモルック大会を行い、最終日に上位者を表彰しました。四日の昼食は、寮でお好み焼きを作って食べました。子ども達は、お腹いっぱいになるまで、お好み焼きを楽しんでいました。

◆福祉教育(アイマスク体験)

広島特別支援学校の生徒さんと交流をしながら広島縮景園での梅の実収穫体験をする事前学習として、東広島市社会福祉協議会あったか応援センターの方から、視覚障害がある人への支援の在り方や思いやりについて考え、行動するために、アイマスク体験と視覚障害について学ぶ機会としています。学園内の梅の実を収穫するときには、どのような支援をするのがよいのかを視覚障害者の立場と支援者の立場になって体験しています。今年度も新型コロナ感染症の影響で、縮景園での交流は中止となってしまい、学習の成果を発揮することはでき

ませんでした。来年度は、学んだことが実際に体験できる状況になることを願っています。

中三　男子

僕は、福祉についてあまりよく分かっていませんでした。でも、「普段の暮らしの幸せを支援している団体」との説明を聞いて、よく理解することができました。目に障害がある人にとって便利なものとして、点字ブロックがありました。今まで僕は、点字ブロックが何のためにあるのかを知らなくて、「ただの道の一部なのかな」と思っていました。でも点字ブロックの説明を聞いて「なるほどな」と思いました。その他にも、目の病気によって見え方が違うということも初めて知りました。白内障は、僕の祖母が一年前にかかったことがあって、その時のおばあちゃんは「こういう風に見えていたんだな」と思いました。高齢者や障害のある人が困っているところを見かけたら、すぐに優しく声をかけてあげて、できる限り助けてあげたいと思います。今回学んだことをこれからの人生に活かしていきたいです。

中一　男子

今日、東広島市社会福祉協議会の方のお話を聞いて、思ったことがあります。まず、目が不自由な方などを助ける道具があることを知りました。白杖や点字ブロック、信号機に音があることも初めて知りました。意味なども初めて知って、びっくりしました。交差点の信号機は、「東西がカッコウ」「南北がピヨピヨ」と音が鳴っていることも分かりました。また、目の見えない方にも、いろんな理由や種類があることも知りました。僕は、「福祉」の意味もあまり考えたことが無かったので、考えるきっかけになりました。アイマスク体験では、案内する側とアイマスクをつけて案内をされる側をしました。案内するときには、具体的に教えることが難しかったです。アイマスクをつけて案内されると、壁にぶつかることがあったので、本当に目に障害がある人は「怖いんだな」と思いました。階段を上がる時には階段から落ちそうで怖かったです。目に障害がある人に会ったら、今回学んだことを実践したいです。今日は貴重な体験ができて、とても勉強になりました。

◆園内の梅の実収穫

縮景園での交流行事は中止となりましたが、福祉教育で学んだことが活かせるのかを実際に梅の実を収穫する中で体験しました。子ども達はどの子も、アイマスクを付けたペアの人を上手に誘導しながら梅の実の収穫をしていました。収穫した梅の実は、寮ごとで梅ジュースにしました。梅ジャムづくりにもチャレンジする予定です。

◆職員の異動

退職

副園長	中谷　恵子
自立支援課長	楠　富美子

転勤

園長	岡田　和子
総務課長	山根　真明

新任

園長	川上　誠司
副園長	加登　亜紀子
総務課長	西川　享
自立支援課長	臼井　直希
心理担当	吉田　暁子

《ホームページ》

広島県のホームページの中に、「県立広島学園」のページがあります。支援者の方との交流や学園の行事の様子などを掲載していますので、ぜひ、ご覧ください。

（https://www.pref.hiroshima.lg.jp/sisi/hiroshimagakuen/）